明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回一日發行　價八錢

家庭雜誌

第五卷　第六號

明治四十年四月一日發行

Dai 5 Kan.　**KATEI ZASSHI**　Dai 6 Gō.

別居の夫婦……堺利彦……一
婦人諸君に與ふ……大杉榮……二
屠畜場（下）……堺利彦……五
櫻散る墓……竹久夢二……九
乙女の死……荒畑寒村……一〇
西洋菓子の拵方……山田嘉吉……一三
早婚……上司小劍……一四
交友の追懷……深尾韶……一六
家族制度の結論……大石祿亭……一八
接吻の勝利……安成貞雄……二一
下婢組合……記者……二六
女學校評論……目黑里人……二七
（五）府立第一第二第三高等女學校
三面記事……記者……三一
ローマ字欄……深尾韶……三三

家庭雜誌社
東京府下新宿淀橋町柏木三百四十二番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聖書、基督教書類其他一切
新刊書籍雜誌類確實販賣

宮川巳作先生著
○**加拉太書研究**（豫告 印刷中）
右は新約聖書中加拉太書の解釋也

文學士 倉橋惣三君編
○**基督教こどもの本**（部數により割引す）
第一編 いらくさ
第二編 なみ子の祈り
各 定價六錢 郵稅一錢

警醒社書店、敎文館、平民書房、內外出版協會、上田屋書店、其の他各店もの廉價取次販賣す

東京神田區猿樂町二五
（振替貯金口座六三三〇番）
中庸堂書店

●**齒科治療** 自午前八時 至午後六時●
神田區須田町二十六番地
齒科醫 吉瀨才市郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御隨意
晝間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

◉**眼科診察** 每日午前◉
京橋南佐柄木町五
（電話新三四五八）
川上眼科院

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

百花爛漫春の如き本月の婦人世界を見よ

妻君必讀

婦人世界

令孃必讀

四月一日發行 毎月一回 二卷第四號 一冊拾五錢 郵税一錢五厘 半年分郵税共九拾錢 一年分一圓七拾五錢

口繪

◎美麗新案の彩色石版しをり
◎米國貴婦人の柔術稽古
◎名家令孃寫眞
◎名家の新婚寫眞
◎東京勸業博覽會寫眞
◎悉く本誌獨特の珍品也

◎私の感心せる女學生（山脇房子）
◎嚴しく育てたる我が家の子供（泰子）
◎甘やかして育てたる隣の子供（笠峰）
◎憂鬱なる良人を持てる妻の心得べき事
◎茶ばなし（名家の洋行失敗談面白し）
◎小兒麻疹の手當（加藤博士）

◎家庭の重寶（茶ガラの利用 足袋を洗ふ法）
◎名家の結婚年齡と初産年齡調べ……
◎少女欄（弦齋居士執筆、少女界大評判の面白き話）
◎懸賞讀者文藝◎育兒問答◎衞生問答
◎三十四歲にて來學せる支那女學生……
◎姙娠は如何にして知るか（伊庭學士）

評判の大文字

娘時代の生活法 村井弦齋

△心は如何に進歩するか
△敎へは如何に受くべきか
△覺悟は如何に大切なるか
△何故に健康は必要なるか
△友は如何に擇ぶべきか

△婦人は如何に擧動を美しくすべきか
△行儀作法は何故に必要なるか
△言語は如何にすべきか
△談話術は何故に必要なるか

◎米國貴婦人と柔術……
◎櫻を詠じたる古來の名歌評釋（白水）
◎議會に提出したる婦人問題請願（矢島楫子）
◎博覽會紀念の最新流行品……近藤蕉雨
◎活動的婦人の模範鳩山春子女史
◎小說（再縁）……潮戸新聲

◎弦齋夫人四月の珍料理

奥様の御重寶

△筍はどんなのが宜いか……
△筍はどうしてゆでるか……
△筍はどうして煮るか……
△筍飯はどうして作るか……
△潮干の獲物は如何にするか……
△蛤の料理は何ておいしいか……
△サワラはどうして料理するか

◎我が娘を嫁に遣りたる時の實驗談（嫁の體格檢査△短刀にて娘を勵ます）有島夫人

發行元 東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社（郵便振替貯金口座參貳六番） 賣捌全國書店

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋水幸德傳次郎君著（定價金五拾錢◎郵稅金八錢）

四月三日
發賣

平民主義

平民主義はわが幸德秋水先生の自ら血を殉り、骨を削りて作りたる一個權身の血塊也。平民主義は、渠を捉して鐵窓に投じたり。平民主義は渠をして千波萬濤を越へて北米の野に走らしめたり。吁、平民主義よ、かくて汝は爰に産出せられぬ。有志諸君、同志諸君、希くは渠の建てたる一大赤旗の下に來れ。蓋し現代文明の缺陷は、一卷の平民主義によりて撃攘せられん。

塚原澁柹先生著（定價金六拾五錢◎郵稅金八錢）

歴史小説

淀殿（よどとの）

第一篇發刊

自晳珠の如き纎手に絶代の豪傑豐太閤を翫弄し、未だ飽き足らずして更に掌を伸べて六十餘州を握らんとしたる女丈夫淀殿が半面や如何に。夜半雨蕭々として蘭燈影淡き下、滂沱として下る數行の紅涙は抑も亦誰が爲めに濺ぐものぞ。

時代に精通し、行文に老練なる著者は、個中の消息を叙して最も明細を極む。而も本書を以て單に女丈夫の生涯を描ける單調の物語となすは甚だ愚也。希くば讀者の烱眼、事實と寓意との鍵を之に探らん事を。これや以て本書の齎すべき興趣たれば也。

未曾有の大快篇＝頁數一千二百頁

理學博士 坪井正五郎君著
●婦人と小兒 ▲價八十錢●稅八錢▼

農學博士 富益良一君著
●草花栽培全書 ▲價六十五錢●稅六錢▼

小澤鹿十郎君著
●小兒のそだてかた ▲價三十五錢●稅四錢▼

平山英治君著
●女子衛生訓 ▲價四十五錢●稅六錢▼

嘉悦孝子女史著
●日用家事讀本 ▲價一圓二十錢●稅八錢▼

嘉悦孝子女史著
●割烹新書 ▲價八十錢●稅十錢▼

菊地幽芳君著
●小説 筆子 ▲一圓八十錢●稅二十錢▼

發兌元 東京市京橋區尾張町一丁目（振替貯金口座八五三番） 株式會社 隆文館

瓦斯引用の大御便利

燈火用
烹燒用
煖爐用

の瓦斯管取付費用（材料共）は總て申受けざることに改め「ランプ」代は御自辨とし一燈に付金九拾錢以上御好の品を取付け可申又瓦斯竈、七輪、西洋料理器、湯沸器等は御望に依り月賦にて最も割安に販賣可仕瓦斯煖爐は別に損料貸の便法を設け低廉の料金にて御貸渡し可申上候

機關用

は「メートル」の位置迄の取附費用を受けず又機關は御便利の爲め英國製最優等品を三ヶ年の月賦にて最も割安に販賣可仕候

●御申込は電話、はがき、口頭にて御通知次第係員出張可仕候

神田區錦町三丁目

東京瓦斯株式會社

各女學校御用
美術造花
材料
附屬品ニ
製造器械一式
東京市日本橋區橫山町壹丁目十六番地
天野卯兵衛
電話(長)浪花一六四三番
切取線
參考目錄御入用ナレハ此切取テ添ヘ御申越被下度候
郡　町村
家庭雜誌

家庭雑誌

第五巻第六號

別居の夫婦

彦

◎夫婦は是非とも同居せねばならぬと云ふ譯はない。別居の夫婦といふものにも亦一種の趣味がある。

◎現に予の知つた人に、夫婦とも小學校の教師を務めて、それが各々先から先に轉任して行くので、どうしても同居する事の出來ぬのがある。こんな現象は今後次第に多くなつて行くに違ない

◎今の世ではこんな夫婦は不幸な身の上だとしられて居るが、予は寧ろ其の趣味を想ふのである。

◎朝に晩に顔見あはせて、同じ様な事を繰返して、同じ様な話ばかり仕て居るよりは、各々違つた見聞を廣め、各々違つた經驗を積んで、それが一ヶ月に三四回、或は三ヶ月に一週間、或は半年に一ヶ月といふ風に、たま〳〵會うて樂む方が、よほど趣味が深いと思ふ。

◎尤も別居などして居るは不安心だといふ人もあるか知らぬが、それが不安心な程の仲なら、何もそんなに有がたい夫婦ぢやない予の考へに依れば、別居は飽を防ぐ法で、却つて夫婦喧嘩を無くする法であると思ふ。

婦人諸君に與ふ

大杉栄

（一）

予は總ての婦人諸君に一言したい。けれども今日の社會に於ては、諸君は全く相異なつた二ツの階級に分れてゐて、或る者は野の百合にも似て紡がず織らず、或る者は又、其の腕を賣り其の力を賣り其の美を賣つて、或は勞働の機械となり或は逸樂の機械となつてゐる。從つて、前者の爲めに言ふ所は後者の爲めに適應せず、又後者の爲めに言ふ所は前者の爲めに適應しない。故に予は、此の二ツの階級に屬する諸君に、夫れ夫れ別に予の寡言を呈する事とする。

（二）

先づ幸福なる淑女諸君に言ふ。

諸君は、冬の風吹き荒んで霰まじりの雨の窓を打つ夜、僅かなる賃銀を得んが爲めに或は野に走り或は町に急ぐ、憐れなる諸君の姉妹に思ひ及ぶ事はないか。

憐れなる姉妹？　諸君の或る者は、此の語の眞意が分らぬかも知れぬ。次ぎに説明をする。

農夫や勞働者の娘は、十三四歳になるかならぬ中に、即ち漸く讀書を覺え初めた時に、其の父母の家を去つて、獨り寄方なき賃銀の原に漂ひ出づるのである。

或る者は工場の中に行く。あばずれの年長者の間に入り交つて、惡い事ばかり覺える。十二三時間の激しい勞働に、身も心も瘦せ細る。監督とか取締とか云ふ兵隊上りの鬼のやうな魔者の手に、其の生命も貞操も玩弄ばれる。そして其の家に歸つて見れば、休息む所とては僅かに、親子七八人の重なり合つて寢ねる、四疊半か六疊の狹い一室のあるのみである。

又幸に其の農家に殘つてゐる者も、顏は澁色に日に燒けて、手足は薑擦子のやうに皸きれて、西洋の古い諺にもあるやうに、女と云ふよりは寧ろ牝と云ふ方が適當な程になる。

（三）

斯くして彼等は、其の胸の中に戀のさゝやきを覺え

る年頃になる。
何物をも賣買に附する今日の社會に於ては、結婚をも亦市場に晒し出すのである。場に溢るゝばかりの少女が、夫れ夫れ其の買手を求める。持參金付の品は、馬鹿でも不具でも醜婦でも、ドシ〳〵賣れて行く。然らざる者は、永久に戀の花咲く時はないのである。

けれども彼等と雖も亦、幸か不幸か結婚する事がある。其の時に彼等は、其の夫の貧と自らの貧とを併せて、二倍の貧窮に陷いる。かてゝ加へて、其の間に子が產れる、養ふ事が出來ない、死ぬる。統計表の示す所によると、勞働階級は紳士階級よりも三倍多くの子を產むと同時に、紳士階級よりも二倍多くの產兒を殺すと云ふ。之れに依て見るに、貧の人を殺す事は、戰爭や流行病よりも更に更に甚しいのだ。

更に眼を轉じて、夜每夜每に其の愛と肉とを切賣する、憐れなる乙女を見よ。彼等の多數も亦、貧家の娘である。一時は雨の後の筍のやうに這ひ出た工場も、やがて恐慌の風の吹き來ると共に、將棋倒に倒れる。

そして其處から吐出された幾萬の工女は、夕の食を得る可く泣いて此の境遇に來るのである。

諸君は此等の不幸なる婦人を、只だ憐れむばかりでは駄目だ。正義の眼を以て、靜かに諸君と彼等との間に存ずる社會的不平等を想察しなければならぬ。そして社會改革の事に思ひ至らねばならぬ。

（四）

社會改革は決して人の爲めのみではない。諸君自らも亦、之れに直接の利害を有つ者である。

諸君と雖も、商業的結婚や合法的淫賣を以て滿足する事が出來ないであらう。法律が許したとて、敎會が何うとかしたとて、愛のない男女の結合が何んだ。却つて其の重い鎖に縛られて、永久の奴隷となり了るばかりではないか。法律は、女が自ら働いて得た財產をも、男の許可がなければ自由に消費する事を許さぬではないか。

諸君は男子の眞の伴侶となつて、總ての點に於て平等の權利を得たいと望むであらう。婦人が品物か動物

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かのやうに、商品視せられないやうになつて、男女の結合がお互の美妙な引力に依つて定められるやうになる、未來の日を夢みる事であらう。

諸君は又、諸君の夫を奪ひ、兄弟を奪ひ、子を奪ふ、彼の戰爭の爲めに諸君の思ひを惱ます。そして僅かに負傷者の病を看、戰死者の遺族を慰めるを以て滿足してゐる。けれども更に一歩を進めて、戰爭其物を消滅せしむるやうに働く事は出來ないものか。

諸君が、人の事や已の事に、即ち諸君の憐れなる姉妹や、諸君の子弟や、諸君自らの事に其の同情深き思ひを及ぼす時、必ずや諸君は社會問題に對して甚だ趣味を有つ人となるであらう。そして遂には此の問題を解決する事に熱中してゐる人々の中に、諸君自らも亦其の身を投ずるに至るであらう。

（五）

次ぎに不幸なる婦人諸君に云ふ。

諸君の多數者は、其の不幸を以て運命だとあきらめてゐる。そして其の搖籃を出て墳墓に入るまで、總て

の專制に服し、總ての習慣に從ふて、謹んで其の『微賤』の位を守つてゐる。人も亦、謙遜と服從の美德を敎へて、總ての謀反的新思想から諸君を遠ざける。けれども予は、面前の不義に對しては沈默の天使たるよりも權利の兵卒たる事を以て、更に德あり勇ある者と信ずる。

迷ひの夢より醒めよ。奴隷根性を棄てよ。そして諸君を蹂躪る者の手より遁れよ。

諸君の兄弟、諸君の夫、諸君の子を慰安し奬勵して解放（エマンシペーション）の戰場に於ける彼等の希望と熱心とを倍加せしめよ。勝利は半ば諸君の手に依つて得られねばならぬ。

婦人運動の勝利

治安警察法の改正に關する婦人の請願は、遂に三月十六日の衆議院に於て滿場一致を以て可決せられたるが、猶二十一日の貴族院に於ては特別審査委員附托となれり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

屠畜場（下）

（名著ジャングルの一節）

堺利彦譯

豚の屍體は又器械に依つて熱湯の中から引揚げられて、一段下の層の床に落される。其の道に又妙な器械があつて、一々其の屍體を擦つて粗毛を拔取つてしまふ。それから又器械に依つて釣上げられて、其の兩側には長さ凡そ百間ばかりのプラットホームがあつて、一間ばかりを隔てゝ働き人が立つてゐる。彼等は豚の屍體が我が前に來るのを待ち受けて、各々受持の一役をするのである。一人が足の外側の皮を剝げば、次の人が同じ其足の內側の皮を剝ぐ。又一人が手早く一突を以て其喉を切れば、次の人が二打を以て見事に首を切離す。首は床に落ちて、穴の中に入つて消えうせてしまふ。又一人が腹を縦にズウッと長く斷ちきれば、次の人が直ぐにそれを兩側に押しひろげる。三番目の人が鋸で以て胸骨を切り開く、四番目の人が臟腑を切り離す。五番目の人がそれを引き出す、其の臟腑も亦た穴の中に消えてしまふ。まだそれから背中の皮を剝ぐ人、腹の中を洗ふ人など色々あつて、次には冷藏庫に運びこまれる。此處らは豚の屍體が山の如く積まれて、一晝夜の間凍らせられる。

また此の冷却室に行くチョット前に、政府の役人の檢査がある。役人は戸の入口に腰かけて居て、是等の豚に結核病がありはせぬかと、其首の腺を探つて見るのである。然し此の役人は甚だ悠然たるもので、見物の人などに對し、結核病に罹れる豚の極めて有害なる事を滔々と語りながら、其間には何時か十疋ばかりの豚が檢査を經ずして彼れの前を通りすぎるのを、一向平氣で居るのである。そして此の役人は、金釦のついた青色の制服など嚴しげに着こんで、云はゞダラム商會の製品に官の證印を捺す樣なものである。

義助は開いた口も塞がらぬほどに驚いて、他の見物人と共にそこを過ぎた。彼も曾てリスニアの森の中で自ら豚を料理した事がある。然し何百人の手を以て一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

疋の豚を料理するとは、夢にも想はなんだ事である。

一行は又次の層に下つた。此處は豚の雜物を扱ふ處で、先づ臓腑が上の層から落ちて來るのを、洗つたり剝いだりして腸詰の皮を拵へて居る。其の臭さが實に甚だしいので、見物人はそこ／＼にして行き過ぎてしまふ。次には一切の屑を集めて、それを煮て脂肪を取る所がある。こゝも見物人の久しく居る所ではない。それから又別の室に行くと、こゝでは冷藏庫から下りて來る豚の屍體を幾つかに切り離して居る。其の職人の中に先づ胴切人と云ふがある。是は豚の胴を眞中から二ツに切る事ばかり專門にやつて居る人で、一時間五十錢といふ高い給金を取る一等の職人である。次に小切人といふがあつて、是は今二ツに切られた屍體を又幾つにも切り離す役で、鐵の如き筋骨を有する大男ばかりである。此の小切人が二尺ばかりの庖刀を持つて、總て只だ一押しにブツリ／＼とやる所、實に切味の善いものである。そして其の切られた肉は、腿は腿胴は胴と、別々の穴を通つて又下の層に落ちて行く。

其跡を追うて下の層に行つて見ると、そこには先づ公の製造室があつて、豚の腿が大きな桶の中に鹽漬にせられて、それから鐵の戸で密封した燻蒸室で燻されて居る。次には鹽豚の製造室があつて、天井に屆く樣な大きな瓶に一パイ豚肉が漬けてある。又其の次の室に行くと、ハムや鹽豚を油紙に包んで、それを箱や桶に詰めて、それを封じてレツテルを貼つたりなどして居る。そして此室の入口から、是等の荷物を積んだ小車が、彼方のプラツトフオームに押されて行くと、其プラツトフオームには鐵道の貨車がチヤアンとそれを待受けて居る。そこで見物人がそれに從ひて外に出て、始めて氣がついて見ると、何時の間にやら此の大建築の最下層に降つて居るのである。

一行はそれより屠牛所に赴いた。此の屠牛所では、一時間に凡そ四百頭の牛が殺されるのである。前の豚の處とは違つて、此處の仕事は廣い一室に於て全く變つた方法を以て行はれる。其室は丁度羅馬の演技場とも云ふべきもので、其の眞中に高く見物人の廻廊が設

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けてある。

其室の片側に、床から二三尺の高さの狹い廊下がある。牛は先づ此の廊下に追込まれて、刺針を以て電氣を掛けられる。それから牛は一疋づゝ、身動きもならぬ程の小さな狹い箱に入れられる。そして何にも知らずに牛がそこで鳴いたり蹴たりして居ると、其の箱の上には早や器械で仕掛けられた槌が、今にも打下さうとして構へて居る。やがてドシン〳〵と云ふ強い音が續けさまに場内に響きわたる。ドタ〳〵バタ〳〵と牛の跳ねたり蹴たりする音が聞える。斯くて一頭の牛が倒れると、槌は直ぐに次の箱の上に至り、倒れた牛は槓杆仕掛に依つて直ぐに其箱から『殺し場』に轉し出される。其時、牛はまだ跳ねたり、もがいたりして居る。それを今度は、一本の足に鎖を繋いて、又ちよいと器械の槓杆を押すと、牛の屍體は忽ち空中に引張りあげられる。右の箱は凡そ二十ばかりあるので、二十頭ばかりの牛が打殺されて轉がし出されるのは、僅かに二三分間の事である。そして其跡には直ぐに又次の一組が入れられるので、箱の口からは殆んど續けさまに牛の屍體が流れ出て、殺し場の人々はそれを又セッセと釣しあげて居るのである。

殺し場に於ける人々の働き振は、實に目さむるばかりの見ものである。其の有樣は先づフートボールの運動にも比すべきか。各々專門の技術を以て分擔を定め、其の一人の分擔は僅かに庖刀の二三擊に止まるので、二十頭ばかりの屍體の列を、片端より一頭づゝ其技術を施して行くのである。先づ最初に『屠者』といふのが來る。是は一突を以て牛の血を流れ出でさせる役で、其の一突たるや實に神速なものである。見物人は只だ刀の閃きを見たばかりで、何時何處を突いたとも知らぬ中に、屠者は既に二番目の屍體に掛つて居る。そして眞赤な血がダラ〳〵と床に流れ落ちて來る。人人は又此血を穴の中に押し流し押し流し仕て居るけれど、それでも床の上には常に五分ばかりの深さの血が漂ようて居る。

それから血の出きつた屍體を床に下すと、今度は『首

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

切」といふのが來る。是は二突三突の早業を以て首を切り離す役である。次にフロアスマンといふのが來る。是は一番先に皮に庖刀目を入れる役で、跡にまだ五六人替りあつて皮剝が終る。皮剝が終ると、屍體は又釣上げられ、皮はグル／＼と巻かれて床の隅の穴に押しこまれてしまふ。釣上げられた屍體には大勢の人が集まつて、切る、割く、臟腑を出す、そして仕舞にはポンプの管を以て熱湯をはじきかけて之を洗ふ。それから最後に足と胴とを切り離して、豚の時と同じ樣に冷藏庫に入れてしまふ。

見物人は之れより冷臟庫に行つて、牛肉の大塊がチヤンと列を成して釣されて、役人の檢査濟の札がベタベタと貼られたのを見せられる。見物人は猶ほそれより雜物室に導かれて、先に穴の中に消えうせたる樣々の雜物の、如何に處分せらるゝかを見て、次に鹽漬室罐詰室、荷作室等に案内せられる。此の最後の荷作室は、上等肉を海外に送り出すので、此肉が文界世界の有らゆる隅々に於て食はれるのである。見物人はこゝ

を出て、又他の大きな建物の間をうろつきまはる。それらの建物では皆な此の屠畜事業に伴ふ副業を行ふので、ダラム商會は大きな蒸汽々罐をも有し、發電所をも有し、木箱製造所をも有し、汽罐修覆所をも有し、脂肪を以て石鹼を製する工場をも有し、其の石鹼箱の工場をも有し、豚の荒毛を以て蒲團を作る處をも有し牛皮を鞣す所をも有し、頭や足の屑を煮て膠を拵へる處をも有し、骨を燒いて肥料を製する處をも有して居る。此ダラム商會に於ては、家畜の體の如何に小さき屑と雖も、決して無駄にせらるゝ者はない、角からは櫛釦、まがい象牙などを作り、骨の屑からは刀の柄、齒磨揚枝の柄、パイプの吸口などを作り、其他筋や骨の色々の屑からはゲラチン、燐、靴墨、骨油、骨炭など樣々のものが出來る。猶其の外に、豚の胃からペプシンを取り、牛の血から蛋白質を取り、臭い臟腑の中からヴアイオリンの糸を作るなど、思ひもかけぬ事がある。そして愈々役に立たぬ物となれば、それを皆な集めてタンクに入れて、先づ其中から取れるだけ脂肪を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

取つて、其跡を肥料にしてしまふのである。

總て是等の事業を行ふ建物は、皆な其の近處に集つて居る、鐵道や廊下を以て本館に接續して居る。熊藏が說明した所に依ると、此ダラム商會と他の諸大會社とを合せて見ると（今では實際殆んど一會社の如くなつて居るが）、それは實に廣大至極なもので、使用人が三萬人、直接其の近傍に在つて之が爲に生活して居る者が二十五萬人、其上間接に之が爲に生活する者は五十萬人もあるであらう。そして此處の製造品は文明諸國の到る處に配布せられ、三千萬以上の人民に食物を供給して居るのである。

前號目次

▲盲將軍と美人（白柳秀湖）▲屠畜場（上）（堺利彥）▲死（深尾韶）▲簡袖の葬式（堺爲子）▲母と二人（西村渚山）▲孤兒の追憶（はる子）▲西洋菓子の拵方（山田嘉吉）▲謀反人の血（大石誅亭）▲紅淚（上司小劍）▲結婚改正案（記者）▲愚妻論（中尾金瀨）▲露西亞の女學生（大杉榮）▲女學校評論（四）青山女學院（目黑里人）▲婦人界の二大會合（記者）▲新刊紹介▲ローマ字欄（深尾韶）

櫻散る墓

竹久[illegible][illegible]路

櫻散る墓は享年十九年
紅筆でせめて似顏を畫いて見る
口笛をきくと笑顏が窓へ出る
春の鐘つき忘れたる男かな
海暮れて人買船の泊りけり
折からの十三夜なり二人なり
乳母が來て世が世ならばと又泣せ
かゝる世に墓よ汝に抱かれむ
姉が來て瘦せたわれえと哀れがり
おつぱいを袴のまゝで呑ませてゐ
一針縫つちやあ一頁讀む
やよ雲雀僕の故鄕が見えるかえ
ながい夢とお忘れ下され候かしこ
死の神なくば花の十六
おぼろ月お一人なのと念をおし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

乙女の死

荒畑寒村

親しかつた人の死を追懐すると、何とも云へぬ果敢ない想ひがするものだ、予は既に叔母の死に會ふた、また母の死にも會ふた、叔母も母も非常に予を愛して居た、予は當時を追想すると、寂びしい果敢ない感が胸に湧いて、熱い涙がホロホロと頰をつたふのだ、予はまた今年二月一人の義妹を失ふた、彼女年二十一、春の海の如な、波長閑に風も無く、麗々と暢やかな、長いそして樂しい前途を有つて居たのに、嗟呼その希望も、光明も、歡喜も、悦樂も、青春の時代の面白い種々の夢も、今は冷たい一杯の土饅頭と化し終つて、短かつた先前の名を刻んだ少やかな卒塔婆が、悄然として只だ一基、雨に風にやせて行く。

予が初めて彼女を見たのは實に昨年三月、予が紀洲田邊の一新聞に在る時であつた、予は四月再び東京に歸つたが、當時彼女は肋膜炎を煩つて居た、然しやが

てそれも快くなつたので、彼女は姉と共に京都の舊居に歸つた、そして十月彼女はまた姉と共に、遙々東京に上つて來たが、今にして想へば、此時はもう既に肺結咯の初期だつたのである。

然し予等は氣が付かなかつた、否な予等ばかりでは無い、當人さへもそれ程とは思はなかつたので、稀に醫者に行く位で深く注意もしなかつた、今年二月予等は郊外柏木へ引き移つた、すると間も無く彼女はドッと床に就き出した、驚いて醫者に診て貰ふと、肺結咯ももう三期に近く、如何に養生するも到底一ケ年を保つまい、との事であつた。嗟呼是れ如何に恐るべく、悲しむべく、いたむべき宣告ではないか。一ケ年！、只だ僅かに一ケ年！、あの活々とした顏色をした、あの瞳の輝いた、あの口唇の燃へ立つ樣な、あの髮の毛の艶々した、そしてあんなに樂しそうに未來の空想を語つて居た乙女は、一年の後には最早此の世の人では無いのか、あゝ悲しき運命よ、

されど予等は決して富めるものでは無い、重き病人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を一年の間看護といふことは予等に對つて輕からぬ負擔である、そしてまた醫師は予等に對して、轉地療養をせしめよと云ひ、滋養物を供給せよと云ひ、看護婦を付添はせよと云ひ、入院せしめよと云ふ、是は決して貧乏人の爲し得るところでは無い、然し爲し得ぬからといつて、この重體の患者を捨てゝ置く譯には勿論行かぬ、予等は一時殆んど途方に迷ふた、されどまた漸くにして心を決した、予等の力の爲し得る限りを盡さうと！。

かゝる中にも彼女の病勢は益々募つて來た、醫師は云ふ最早一ケ月を保たざるべし、既にしてまた來り告げて云ふ一週間も危うからん、而して最後に來つて診斷して云ふ、最早三日間を出でゝ、此の宣告を受けた夜、彼女の面影は漸々にして變り行いた、その細き指の爪は刻一刻紫黑色を呈して行つた、知覺はやゝに衰へ行き、咽喉はせぐり來る痰に凄まじく鳴つて、いまにそれを切る力さへ失せて終つた、そしてその翌る朝遠く冲の彼方に歸る潮にひかれて、彼女の若き魂は永

遠の國に去つて了つた。

果敢ないのは人の生命では無いか、悲しいのは人の運命では無いか、彼女の父母は早く世を去つて、彼女は只だ一人の姉と共に、具さに世の波の苦い味を嘗めた、そして一度その胸に芽ぐむだ戀の花が散らされて了つてから、彼女はまた再び起つ能はずなつたのである。予は彼女の清き心を弄んで、彼女に悲しき失戀の杯を啣ましめた、男に深き恨みを有つ、またか弱き彼女を驅つて、悲しさ生計の資を得むが爲めに、烈しき勞働に從事せしめて、遂にその健康を傷つけ、次でまた永き樂しき前途をさへ奪ひ終つて社會に對して、予は深き深き怨みを有つ。

嗟呼彼女、戀やぶれて心まづ傷つき、病を養ふべき財なき爲めに空しく逝いて了つた、眞に彼女の逝けるは病の爲めではない、病を養ふべき財無きが故であつた、見よ今の社會に在ては、弱き者貧しき者等は、一度病まばまた再び起つ事が出來ぬでは無いか、そしてまたその家族等は、いかに之を苦痛とし、重荷として、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

煩悶し懊惱するであらう乎、貧に迫りて病める實子を殺す者は、殘酷無慈悲の極惡人として新紙に罵しられる、されど此の如き社會に生存するもの、何人かその心裡に於て此の所謂大罪惡を犯さぬものがあらう乎、是れ實に現代社會に於ける、人類共通の煩悶ではないか、嗟呼呪ふべき社會よ、汝はいかに人の心を殘忍ならしむよ。

顧みれば茫としてまるで夢の如、彼女が物心ついた時、世の悲しみを知り、世の樂しみを知りそめた時、かゝる生涯を辿り、かゝる歷史を造り、名も知らなかつた代々木の一小寺の、佗しき墓地に埋まらうとは思ひもかけなかつたであらう。嗟呼人世の運命ほど、奇しく、悲しいものがあらうか。

非墳墓同盟

此の頃若宮卯之吉君と云ふ自由思想の人が、非墳墓同盟を組織すると云つて、しきりに奔走してゐる。之れを聞いて屍體は燒いて紛にして吹き飛ばすが善いと云ふ人もあり、肥料にするが善いと云ふ人もあり、水清き川に棄てるが善いと云ふ人もあり、大ぶん贊成の聲が高い。

西洋菓子の拵方

山田嘉吉

(四)Lady finger

▲材料　總てスポンジケーキの分量に同じ。

▲方法

(一)鉢を二ツ出して、一ツには卵白を入れ、一ツには卵黃を入れる。

(二)卵黃を入れた鉢を少しストーヴの上で温める。

(三)之れに砂糖一卓匙を入れ、白くなるまでかき廻はす。

(四)粉一卓匙を入れてザツトまぜる。

(五)卵白を十分にビートして沫にして卵黃の鉢にまぜる。ビートのしやうが足りない時は、之れを紙の上にのせる時に凹んでつぶれて仕舞ふ。

(六)之れを紙の上に並べて、砂糖をぶつかけ、スポンジケーキの火位にして燒く。火が強いとしなびれ、火が弱すぎると流れて仕舞ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲應用

(一)Bouchées ドーを丸く作つて焼いた中にホイツプト、クリームを挾み表に砂糖を塗つたものである塗る砂糖はいろ〳〵の色にしてよい。

(イ)白色は砂糖を其の儘ぬる。

(ロ)砂糖に赤粉を入れてぬれば、赤いかざりが出來る。

(ハ)砂糖に青粉を入れゝば、青かざりになる。

(ニ)チヨクレートを入れて塗れば鳶色のかざりになる。まづ砂糖ばかりで白く塗りあげて、次に赤と青とを作つて塗る、最後に赤、青の砂糖を皆ぶち混ぜて、チヨクレートを入れて塗れば、砂糖をむだにする事がなくてよいのである。

(二)Bouchées al'asta 少しかまぼこ形に作つて焼いたものである。

(三)Almond Bouchées ドーを五十錢銀貨位の大さにまるめて紙に並べて其の上にチヤツプドアーマンドをふりかけて又其の上に砂糖をふりかけて焼くからである。アーマンドのかはりにコ、アナツトをかけて焼いてもよい。

(五)Kisses

▲材料

(一)卵白　三ツ

(二)砂糖　半斤

▲方法

(一)鉢の中で卵三ツをよくビートアツプする。殆んど乾く位までよくビートする。

(二)砂糖半斤をよく篩つて塊のないやうにして、そろそろ混せる。

(三)混ざつた時に紙の漏斗を作つて中につめ、之を卵のからの形に紙の上にしぼり出して置く。

(四)砂糖をよくふりかけ、紙を二十分位入れて置いても焦げない位の極く弱い火でオーヴンの中で焼く

(五)焼けた時にさます。

(六)下に敷いた紙が取れない時は、濡れた布の上に其のまゝ載せる、紙がぬれるとすぐにとれる。(完)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

早婚

上司小劍

（一）

三月三日は雛祭なり、雛壇を設けてお客をする。主賓は白柳秀湖氏、主客相對して、白酒を飲み、慈姑を喰い、蛤の吸物を啜り、膝ッ小僧を出して、互に氣焔を吐く。秀湖氏曰く『雛壇と云ふものは階級制度の縮圖だね。殿樣、奥樣は永久に高い所に坐し、五人囃子、狆曳き、仕丁は一生低い所にありて奴隷たり、』と、予曰く『それでも君、殿樣、奥樣は一對で一圓、狆曳きは一つで一圓五十錢、狆曳きの方が高かつたよ、』と。

（二）

簡易生活を通り越して、荒凉先活を喜ぶに至れる予が家に、七面倒な雛壇と云ふもの丶あるが可笑しと人々云ふ。されど予は實に雛壇が好きなり、雛祭と云ふものに大なる趣味を有す。これには理由のあることなり。

予は少年時代より早婚論者にして、人間の幸福は早婚にありと信じ居たり。然り今にても斯く信じ居るなり。早婚の出事ないやうなものは不幸なる人なりと思ひ居るなり。然るに予もまた其の不幸なる人の仲間入りをなしたり。予が家の生計上の都合は遂に予を遮りて早婚をなさしめざりき。こ丶に於てか雛壇を造りて纔に自ら慰む。雛は實に早婚なり。紅顔の美少年と、綠髪の美少女とが、夫婦となりて並び座せるものは、雛壇上の主人公にあらずや。

（三）

世には早婚の弊を說くものありて、甚だしきは、男三十、女二十五まで結婚すべからず、なぞと云ふものあれども、人生五十の半ばを過ぎて結婚するはつまら無し。それよりも男十六七歲、女十五六歲にて結婚し、お雛樣のやうな夫婦となりて、まゝ事の如き生活をするが人生の最大幸福なりと思ふ。

（四）

八百屋お七と吉三との夫婦、お染と久松との夫婦、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

白木屋お駒と才三郎との夫婦、初菊と十次郎との夫婦、小浪と力彌との夫婦、偖ては腰元と小姓との戀なぞは、芝居で觀ても奇麗で、愛らしくて、ゆかしきものならずや。これ實に予が理想的結婚なり。今時のやうに、二十歳を越し、三十を越し、四十にも近づきたる男女が結婚して、花嫁花聟呼はりするはチャンチャラ可笑しいことなり。半婆半爺が人生の花にはあらざるべし。

（五）

浮世がセチ辛くなるにつれて、男女の結婚年齡が愈々晩くなるは厭やなことなり。世の晩婚論者は曰く、早婚は子孫を虛弱にし、後世國民に禍を胎すものなりと、現在此の世のツイ近所に饑餓に泣き、寒さに凍えつゝあるものあるも、知らぬ顏にて過す人達が、遙か後の世の子孫なぞを心配して下さること、如何にも有り難涙の溢るゝ次第なれど、我等は只眼前の幸福と愉快とだにあらば澤山なり、後世子孫なぞは何うでも良きなり。換言すれば後世子孫のことなぞ考へて居る暇無きなり。そんなことよりもこのセチ辛き浮世をば、

何うかして早婚の出來るやうな安樂の浮世にする工夫は無きかと思ひ煩ふなり。

（六）

今日とても、田舍に住む人は都會に住む人よりも總じて早婚なり。これ田舍の方が都會よりも生活難の尠き爲めなり。結婚の早晩は生活難の程度を測る最良の器械なり。若し一般に男十六七歳、女十五六歳にて結婚するを得るやうな世の中にならば、天下は實に泰平なるべし。今の我が民法は男十七歳、女十五歳にして結婚するを得る定めなり。

（七）

予が終生の遺憾は、花ならば蕾の十六七歳を、冷かにして寂しき學校生活に費して、同じ花の蕾なる十五六歳の少女と結婚するを得ざりしことなり。されどこれ云ひて返へらぬことなり。若し予に金錢の自由あらば、せめてもの何處かの美少年と美少女とを結婚させて、我が家に同居せしめ、日常其の睦じき雛の如き契りを見て自ら樂まんものを、されどこれもなか〱急に行へさうにも無し、それで仕方無しに、雛壇を設け、人形の若夫婦を並べて自ら喜ぶ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

交友の追懐

深尾韶

（一）

幼な馴染、學校仲間、文章の相手、いろ〳〵の友、樣々の交り、友達くらゐ樂しく面白く、床しく懷かしく、そして後の後までも思ひ出の種となるものはあるまい。不幸にして予は此の友といふものがタント無い。併しタント無いだけに存外深い交際をしてゐるのかも知れない。

（二）

第一の友は「お鈴さん」と云ふ名であつた。たしか予よりは二つの年上で、人の好い、慈愛の深い子であつた、予が六つばかりの時、予は男であるに係はらずお鈴さんが一番好で、お〻然う〳〵！「男と女とまーめ熊」こう近所の子供に言はれながら何處も隱れては二人で遊んで居た。或時などはお鈴さんの家の人が皆な留守なのを幸ひ、廣い戸棚の中に這入つて〻、事をした事もあつた。當時の予とお鈴さんとの秘密は唯二人の仲を隱すことであつたが、驚くべし此小さな子供の秘密は今日まで嚴重に守られたのである。予の兩親もお鈴さんの兩親も、恐らく此二人が是程の仲好であつたとは氣が附かなかつたであらう。

指折り數ふれば早や其後二十幾年。予は七つの年に靜岡の三加番を去つて、それからは一度もお鈴さんの消息を聞かない。十三の時又その近所へ行つて昔の仲好をそれとなく尋ねて見たが、もう其時は何處かに引越して了つてゐた。

生きて居れば今年多分三十になるだらう。會つたとて顏は疾に忘れても居るし變つても居るが、折々はモ一度會つて見たいような氣もする。殘念な事には苗字がどうしても思ひ出せない。

予が此樣に女々しいのも、考へて見れば大部分はお鈴さんの感化らしい。

（三）

小學校では同級生徒中予が一番身體が小さくて一番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

年下で一番弱虫であつた、山本忠吉と云ふ恐ろしい亂暴な生徒があつて、どんな事でも自分の言分を通す。先生さへ持餘して拋つて置いたが、彼よりも學問の勝つた、彼の出來ないで萎げてゐる時にいつも心地よげに手を擧げる、校長の息子たる、予は、遂に彼の嫉視を免れる事が出來ず、敎員の見ない處で屢々彼の爲に泣かされたものだ。そこに唯一人、極めて親切な友があつて、常に予に加勢し予を救つてくれたので、予は感謝に堪へず其子と兄弟も及ばぬ交りを結んだ。

相見ざる事既に數年、日露戰爭中友の軍に從へる滿州へした音信以來、手紙書く事も怠つてゐるが、予が歸省したらば友は必と喜んでくれるだらう。

友の名は小沼豊松と云ふ。予の父母の隣に住んで日々鍬鎌に親しんでゐる。

（四）

予が十四五の頃、博文館で（中學世界）の前身（少年文集」の更に前なる『筆戰塲』と云ふのが出てゐた。予は其熱心なる投書家の一人であつたが、是も同じ仲間

の北海道函館區蓬萊町に住む輪島龜吉と云ふ人があつた。此二人は誌上の應答から手紙の往復となり寫眞の交換となりて、端なくも熱情の交りを結んだ。が、二三年の後、彼は突如音信を斷つた。予は醫すべからざる悲哀に陷つて、纔かに悲しみの文を草しては愁憂を遣るのであつた。

（五）

其頃『詞壇』と云ふ小投書雜誌があつた。予の『友を失うて悲みの餘り』と題する文が揭げられた時、第一に慰問の書を寄せて新たに交を締せんことを求めたるは福井市の久保村久君であつた。予等は其時から遂に水魚の交りを結んだ。

（六）

社會主義者以外、最近に得た心友は関郁瀧恭三君である。君と予とは同じ靜岡縣、同じ駿河に生れ、同じ北海道の經驗がある。『中學世界』に投書家たりしも同じく文章に野心あるも同じ、唯君は年と識と共に數年の長。君今や遠く韓國に在つて京城日報に『沈鐘』といふ小説の筆を揮ひつゝある。久しく音信に接せぬ予も、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日々其の新聞を見、君の健在を知て安心して居る。

（七）

予は偏狭で片意地で、小さい時分から朋友無用論を唱へ、友を持たぬ事を以て誇としてゐた。然し春が來れば花が咲く。久しく落寞寂寥の生活を送つた予は、止むに止まれぬ人懐こさが胸の底に湧いて來る。十三の年から父母の膝下を離れた予の寒く小闇く淋しき常冬の生活に、炬燵の温かみを送つてくれた人は、輪島、久保村、瀧の三友であつたが、茲に更に嬉しき一道の春の光りを送つてくれたのは、可愛らしき予の敎へ子、幾十百の少年少女であつた。予は彼等ありしが爲に笑ひもすれば泣もする高き感情の兩極間を往復することを覺えた。予は彼等を敎へ子として慈しむのみならず、最よき友と親しんだのである。あゝ今も忘れぬ其美き名よ！

（八）

幼な馴染、學校仲間、文章の相手、予にも一通りの友はあつた。が、調べて見れば、どれも之も大抵は予と同じく失意の人、不遇の人ばかり、類は友を以て集まるとでも云ふのであらうか。

（完）

家族制度の結論

大石祿亭

○我々は家名を重んずるとか家系を尊ぶと言ふ樣は舊來の家族制度には少しも趣味を持たぬもので、家が何うあらうが斯うあらうが其人間が箇人としての價値さへあればよいと言ふ信仰を有つて居る。故に子のある人は之に家名を繼がせるのも可いが、故らに子を得んが爲め妾を置いたり、又他人を養子にして何んでも乎んでも家名を斷絶させぬ樣に勉めるに至つては、甚だ不自然な事として之を排斥するのである

○元來家を繼ぐと言ふは漠然たる言葉であつて、之を仔細に分析して見ると家業を傳へるとか家財を讓ると言ふ樣な事に歸する、而して祖先より傳承した職業あり又財産のある人が、之を己れ一代限りで斷絶せしめず我子孫にも傳へたいと言ふならば我々は之に同情を寄せる。さうして之を讓るべき男子無き場合にはその娘に養子を貰ひたいと言ふも强ち無理とは思はぬ。併

しながら世間には大に之と趣を異にして、故らに多くの別家分家を造り之を爪牙として自己の權勢を張らんとする野心家がある。若しも自分に多數の男子を儲けて各々之に家を持たさうと言ふならば何の不思議もないが、何の因緣もなきものを方々から狩集めて來て之を養子となし養女となし、以て自分の姓を襲はせねばならぬ理由が何所にあるか、又昔より在來の財產を承繼がせると言ふならば多く咎むるにも及ばぬが、別家分家を造らんが爲めわざと他人の家屋を買收したり土地を併呑するの必要が何所にあるか。我々は斯の如きものを見て既に人情を離れて我利我慾の境界へ踏出したものであると思ふ

○近頃新聞や雜誌で幸福なる繁榮なる某々等の家庭として紹介せられ、世人が羨望の種となるものを見るに、その五十人百人を以て算ふる一門と言ふものは、決して自然に出來たる血統の關係者に限らず、或は母系の從姉妹に聟を取つて新しき家を起させるとか、或は妻の姪に養子を貰ふて別家を拵へるとか、其他小間使と言はず下婢と言はず、猫でも杓子でも苟も自分の家名を冠らせる事の出來るものならば悉く之を引入れて、故らに家門を盛んならしめんと苦心して居る樣に見える。而して斯の如き人爲的の一族から何人の秀才が出たとか何十人の名士が出たとか言つて珍らしがるなどは大に滑稽じみた話ではないか。否それが唯好奇心にのみ因るものとすれば敢て咎めるにも足らぬが、之によつて世人を瞞着し以て私利を得んとするものあるに至つては大に攻擊せねばならぬ。假令へば東京に於ける佐藤家と大阪に於ける緒方家は共に刀圭界に名高くして、各々多くの博士と學士を網羅する一門であるが、若しも其内一人でも二人でも、單に佐藤であり緒方であると言ふ事を看板にして、自ら其技倆の拙さにも係らず世を欺くものがあつたならば何うか。これ恰も池の端の寶丹屋が守田と言ふ姓を求むるに汲々とし、伊勢の賣藥商が萬金丹の本家爭ひをするにも似たる卑劣な振舞ではないか

○我々普通人間の家は養子を貰ふか或は妾を置くか、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

其他に何か不自然な人工的の保護を加へざる限り、數代若しくは十數代にして斷絶するのが寧ろ當然で、何十代も繼續する方が却つて例外であらう。而して又之を他の方面から見ても强大なる家族の存在は社會若くは國家の爲めに危害を醸す基となりはせぬか、歴史の示す處によるも甚だ盛大なる一門は其勢を憑んで叛逆を企て、往々帝位を狙ひ君主を押籠め奉る樣な事がある。現に我國近世の紳士閥でも三井一族岩崎一門と言ふ樣なものが、益々其富と勢力を增加するに至らば、彼等が國家に對する關係は如何に成行くであらうか、彼等は昔の將軍や大名の如く高き位に登るを得ず、又多き臣下を蓄ふる事は出來ずとも、其富の力を利用して或は〇〇をも〇〇をも〇〇をも、悉く我有として社會民衆の利害を眼中に置かぬ樣になるかも知れぬ

〇或論者は我國固有の家族制度を以て國體の基本であると思ひ、之を改廢したならば直ぐにも一國が潰ぶれる樣な事を言ふ。併し我々の考では此家族制度を論理

的に擴充する時は、己れが一族の繁榮を願ふのあまり、國家よりも君主よりも又多數人民よりも我家を重んずると言ふ結論に達し、却つて社會の安寧秩序を紊亂するに至るであらうと思ふ。要するに將來此世の經濟組織に改革を加ふるに至らば、我々人間は家名や門閥と言ふ樣なものを看板にして私利を計るにも及ばず、一族の繁榮を種にして外貌を張るの必要もなく、總ての人は皆赤裸々にして尙ほ貴き人間たるの價値が認められ、各々箇人として十分の幸福が享有せられたるものであらう

本月も愚稿差上ぐ可きの處、明日より當地を去る事となり、其の準備に忙しく、到底出來さうもなき故、本月だけは失禮致します。一度故郷の伊勢に歸つて、更に三十日頃に上京する豫定であります。

備中高梁にて

三月十五日　中尾濟太郎

大杉榮樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

接吻の勝利

安成貞雄重譯

看護婦ヘロミナは、懺悔堂の格子に身を凭せて、オドくしながら、云ひ出した。

『上人樣、私は罪を犯したとは思ひませんが、時々良心が、私が罪を犯したと云つたり、何も罪を犯さないと云つたりする樣に思はれます。そして、犯したと云はれるより、犯さないと云はれるのが、どんなにか辛う御座いませう』

懺悔を聽く僧侶は要領を得るに苦しむだ。

『もつと明瞭り御云ひなさい、何事も隱さずにナ。貴女はまだお若い、十八やそこへらでは人の良心と云ふものは、あてに成らぬものぢや。拙僧が判斷して上げます。神樣が智慧を借して下さるのぢや。サアお云ひなさい』

『御聽き下さいまし。何もかも白狀します。月曜日の夜のことで御座います、私はマリアさんと交代して

七號室の病人へ看護て居りました。御醫者樣は、もう駄目だ、望がない、苦痛も長くは續くまい、息を引き取るのは、屹度夜明前だらうと仰有いまして、

『最早激しい發作も起りはしますまいか、若し貴女の御考へで、私の手が要ると御思ひならば、御遠慮なしに御起し下さい。他の患者は心配に及びません。あの人達は、貴女にも私にも手數をかけますまい』つて部室へ下つて御寐み成さいました。

私は三十分每に一匙づゝ御藥を與るばかり、用と云つても他に有りませんでした。それで每夜の如に寐臺の側にすはつて居りましたが、不圖氣がつきましたから、亡く成つて行く靈魂の爲めに祈禱を捧げました』

『誰れの靈魂と云つたナ』

『苦しむでゐる可哀想な男の方の靈魂の爲めにで御座います』

『ではそれは男だつたのかナ』

『オヤ、そう申上げませんでしたらうか』

『拙僧の聞いたのでは、貴女はたゞ七號室と云つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だけぢやテ、七號室だけでは、男か女かわからない、が、まアそれはどうでも宜い。それから？」

「丁度三時頃で御座いました。病人が、蚊の様な聲で――私は死息かと思ひました――「ヘロミナさん、僕はもう駄目です」と息をセイ〱させて云ふので御座います。夜中から病人は人事不省に陷ちた様に、靜かに寐てゐたんで御座いませう、私は吃驚して、「しつかりなさい、しつかりなさい」と囁きました。そうしますと、病人は一言一言明斷云はうと一生懸命に成つて、云ひ出しました。「ヘロミナさん、僕はもう覺悟をしてゐます。二十五で死ぬのは情無いが、世間から見放されたんだから、死ぬ方がましです。僕は一人ぼつちで、貧乏者だつたんです、自分では詩人だと思つてゐたが、詩人でも何んでも無かつたんです。他人から愛されたと、獨りで喜んでゐたが、誰れも愛して呉れませんでした。貴女が、かうして側にゐて下さらなければ、僕は砂漠に棄てられたと同様な死様をするんです」、病人はだまつて了いました、私はまた「しつかり

なさい、しつかりなさい。神様は、貴方を守つて下さいます」と申しました。

二三分經つて見ますと、病人は窪んだ青い眼に涙を一杯浮べて、「ヘロミナさん、僕の願を聞いて下さいませんか」つて、云ふんで御座います。「私が能ることなら、何なりと仰有いまし」と申しますと、「貴女は、僕が安らかに往生のを望つて下さいますか、僕が、僕を創造つた神をほめたゝへながら往生のを望つて下さいますか」「まことの信者は皆んなさうあるべき筈で御座います」と私は答へました、

僧侶は喙を容れて、

『貴女は天晴れな御答へをなさつた』とほめそやした。

『病人は、かすかに「そう出來る様に助けて下さい」「どんな風に」と訊きますと「どうぞ苦痛を忘れて、浮世の關を超えさせて下さい、どうぞ親切を受けた記臆をあの世へ持つて行く様にして下さい。ヘロミナさん！死にかゝつてゐるものを憐んで下さい！どうぞ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

……接吻を一度」
「接吻！」と僧侶は仰天して叫むだ。
「ハイ、私はまた「しつかりなさい、神樣の接吻を御享けなさる樣に御心掛けなさい」と申しました」
「誠に感心な御答へぢや」と僧侶は敬服した。
「それでも病人は絶え〳〵な息づかひで「この願を叶へて下さい。わかりませんかヘロミナさん、僕を救つて下さるのは貴女の他にありません。貴女は、何時までも悔恨の念に責められたいんですか、僕の靈魂を亡ぼしたいんですか、貴女のせいで地獄へ墮ちても可いんですか」
「で貴女は？」と僧侶は恐ろしげに聞いた。
「上人樣、かう云はれて私は氣が轉倒して了いました考へて見ますと、病人は苦しがつて、永く地獄へ墮つる樣なことをするかも知れません。それが私のせいだつたら、私も墮るかも知れません。それに、一分一分に死神がよつて來て、夜明前には息が絶れるのかと思うと、私はたまらなく成りました、部屋は寂莫として、

病人の重苦しい息が聞えるんで御座いませう。他に患者と云つては三四人しか御座いませんが、それがみんなすや〳〵と寢入つて居ります。燈はぼんやり薄暗く成つてゐまして、眞白な寢臺が、まるでもうお墓の樣に見えるんで御座います。私は氣が滅入つてしまいました。身を屈めて、病人に接吻をいたしますと「難有う、難有う」とかすかに云ふのが聞えました。それから私はまた祈禱を捧げました」
「で貴女は何所へ接吻なすつたのぢや」押し靜めた聲でかう云つて僧侶は心配をかくさうと力めた。心配で、判斷力も何も掻き亂されたのである。
「上人樣、もう眞暗と云つてもよい位で御座いましたから、よくは覺えませんが」ヘロミナは狼狽もせず「口に接吻した樣に思ひます」
「それアとんだ輕忽ぢや、斟酌して云つても、輕忽ぢや。それア無論貴女が好意で以てからになさつたことも、よう解つてゐる。信者の尊い、敬虔な眞情に動かされてしたことには相違ないが、しかし、不穩當だと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云ふ譏は免れない。いやもう破戒と云つてもよい位ぢや。口でなく、額へした方が難が無かつたらうし、病人の靈魂を救ふ位は、それでも十分ぢやつたらうに。兎に角貴女は、よしんば死にかゝつてゐるにした所で、男の口に接吻した以上は……」

「だから私もさう白状したんで御座います」

「しかしぢやな。もうその病人の葬式がすんだことぢやらう。そう成れば、何も心配せずともよからう」

「所が、上人様、そうでは御座いません。まだ生きてゐるんで御座ります」

「生きてゐるつて！」

「ハイ、曉方までは虫の息で御座いましたが、朝日がさし込むでからは、回復る兆候が見えて來たんで御座います。御醫者様が見廻つて下すつて、驚きなすつた御様子をかくし切れなかつたもので御座いますから、病人はそれを見て、口元に微笑を浮べて居りました。御醫者様は叮嚀に診て皮下注射をなすつて、小聲で「どうも不思議ですね、乾度此の病人はよく成るでしやう」

と仰有りました。

「それア災難だ！」と僧侶は周章狼狽して叫むだ。

「まア、何と仰有るんで御座います」

「これア、どうも大變な問題に成つた。貴女が、息のある男に接吻しても、死んでしまへば世話がないが生きてゐるとなると、恁麼してよいか、拙僧にはわからん。何事も神様の御心の内にある事だが、若しその病人が生きるなら、神様も御困りなさるぢやらう。兎に角、打ち明けて御相談すると仕やう、御互に表面だけでも繕はなければなるまい」

暫く思考て僧侶はまた問ひかけた。

「さてその御醫者と云ふのは、どんな人物ぢや」

「それはもう立派な方で御座います」

「ぢやらうが、その技倆の點はどうぢやらう」

「優秀れた内の隨一で御座います」

「で、病人の今日の容態はどう」

「大變よい方で御座います」

「貴女の身の破滅ぢや」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「悲夫！神様！」
「貴女はまだ、みだりに御名を呼ぶ！」
「そんな極惡い罪人で御座いませうか」
「御名を呼ぶ資格が無いのぢや」と一喝したが、ヘロミナが、ワツと泣き出したので、少し語を和らげて、
「わしも皆目わからない。貴女はつい今、良心が罪を犯さないと云ふときの方が、犯したと云ふ時よりも辛いと云はれたが、そんな矛盾がまたと有らうか。この拙僧にも解き様が無い」
「私にもわかりません、そう感じましたら、有りの儘を懺悔してるんで御座います」
「貴女は、貴女のしたことを悔いてゐるぢやらう」
「若し、惡いことならば、屹度悔い改めます」
「善哉、善哉、ぢやが、今直ぐ無罪の宣告を下すまい。二三日見合せて、病人の容態がどう變るか見てから、其成行き次第を所置すると仕様。今日はもう聞くまい。まア歸られたがよい。ア、それから、寝臺に近寄るのを斷ちなさい」

「私は始終羞かしい思ひをして居ります」
「それならば結構だ」

＊　＊　＊　＊　＊

三四日後、ヘロミナはまたやつて來た。
「七號室はどうぢや」
「大變良く成つた様に思はれます」
「御醫者は何と云はれた」
「どなたも、全快するだらうと仰有いました」
「それぢやアもう貴女には救ひが無いのぢや」
「ハイ、私も病人にさう申しました」
「何と云つたのぢや」
「貴方のおかげで地獄へ墮ちるんです。若し貴方が蘇生かると知つてゐたら、忘れても接吻するんぢや無かつたと申しました」
「それで其の助かつた詩人先生は何と云つたナ」
「私の地獄へ墮つるのを見ては居られないから、今度は私の代りに成つて、屹度私の靈魂を救ふて呉れると申して居ります」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「助からなければ救へたのぢや！」

「えゝ、それですからあの人も私に誓つて、御醫者樣が、いよ〳〵全快と云つた其日にすぐ自殺すると申しました」

是れ正に降つて湧いたる難問である。僧侶は暫く沈思默考したが、やがて仕方がないと諦めて厳かにかう云つた。

「無罪を宣告する方が、どつちかと云へば、いまは當を得た所置だ。そんな男をいまこゝで見殺にするのは、いま一度接吻から罪の復習をする樣なものぢや」

（伊太利、ロベルト、ブラツコ作）

奇妙なる報告

或る死刑囚が其の最後の日の近づくに及んで病氣にかゝつたので、典獄は一時彼れを病監に入れてやつた。すると一週間ばかりして醫員から典獄に報告書を送つて曰はく、彼の死刑囚の病氣全快せり。今は彼れの健康を懸念する事なく、直ちに死刑に處するを得可し。

下婢組合

濠洲ウエリントンよりの報導によれば、同地に於ては仲裁裁判法の下に下婢組合の設立を見るに至れるよしなるが、此の仲裁裁判法の規定によれば組合員は次の如き要求を爲し得可しと云ふ

（一）祝祭日に勞働する時は、一時間に就き一シルリングを要求する事を得

（二）月曜、火曜、金曜、土曜日には午前七時半に業を棄て、木曜、日曜日には午後二時、水曜日には午後十時に業務を去る事を得

（三）總て夜は十時に家に歸るを要するも、木曜日は特に深夜に至る迄外出するの自由を有す

猶此の下婢の要求に關しては、主婦其の相手方となり仲裁裁判所に出廷を命ぜらるべきものとするよし也。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女學校評論

目黑里人

(五) 府立第一第二第三高等女學校

●私立と、府立との特色　記者は之まで好んで私立の女學校に筆を馳せた。之は官立もしくは府立よりも、私立の方が評論をするに取柄があつて面白いからであつたので、別に外の理由が有つたのではない。

私立の女學校を見ると、其經營者の主義、理想が幾分なりとも、其校風の上に現はれて居る。例へば基督教主義とか、佛教主義とか、家族主義とか、個人主義とか、夫々其特色を有して居る處に、評論の取柄があつて面白い。

處が府立に至つては此特色が見られない。もう何から何まで一切が機械的で、其名を聞いたばかりでも、死灰を嘗め、淡水を味ふような氣がする。勿論此點が此種の學校の缺點であると共に、又長所であるのだ。新生命の鼓吹といふ様な事は到底此の種の學校に於て望まれない。吾人は之を私立の學校に期待するより外はないのである。

●機械主義　メカニズムといふ一語はよく府立を評し得て妙だ。此種の學校には校長といふものがない、イヤ有つても無いと同様なのだ。何となれば何んな些

細な事でも、一々東京府に伺ひを立てゝ、それから行るので、職員でも講師でも、宛然電話の交換手か、蓄音器のようなもので、免狀とか、資格とかいふものがあれば、其人物の内容如何の如きは殆ど問ふ所はないのだ。

一例を擧げて見ると、此學校の入學手續などと來たら所謂繁文縟禮で、一切が役所の小役人を相手にして居るように面倒だ。學校などはもう少し簡易に、行るように氣を付けて改良して行かなければならない。東京府に伺ひを立てる事は努めても、恁んな事は、チッとも氣を付けないと見える。更に例へて見ると、此學校は授業を休むなんといふ事は、それこそ何んな事があつてもない。勿論、之が府立の特長だと云へば、そうかも知れないが、學校といふ處をそんな窮屈な處にしないで、もう少し應揚にしてやる方が近世的の教育主義だろうと思ふ。御親類の師範學校へ行つて教育學の講義でも聞いて見給へ、そんな頑張つた規則詰にするのを中古主義の教育といふて排斥して居るぢやないか。

何しろ無邪氣な少女を相手だ、運動會の翌日なんか、せめて一日位は疲勞休暇をさせて遣らなくちやあ反つていけないよ。どうも永い間文部省にいぢめられた人なんかは恁ういふ處に融通のきかない事が夥しいようだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●高尾山の秋、坂谷大臣の娘　去年の秋、記者は急に思ひ立つと其儘、新宿から甲武線に乗換へて、柿の霜葉の露に咽んで、金泥の尾花目も遥けき、平原の秋色を車窓に眺めながら高尾山に遊んだ。寂たる山亭の樓に倚つて、靜かに瞑想を貪る積りてあつたのである。

記者はかの老杉參差として、四顧森嚴たる高尾の祠畔に佇んで、古き石彫の鮮苔をかひ撫でながら、幽寂の氣にうたれて居た。此時記者はフト鶯の玉を弄する樣なメロヂーに驚かされて顧ると、今蝙蝠傘を杖に甲斐々々しく裝ふた一隊の女學生が石壇を登つて來る處であつた。喃々として語る優しい聲が溪に應へ、木魂に返して面白い。後で聞くと之が府立第二の五年級の生徒であつたそうである。

話は之からだ、處が此一隊の女學生が歸る時に八王子停車場から群を離れて、特別列車で歸京した一人の少女があつたが、勿論供の者も連れて居た。如何に貴族とは云ひながら之はまた餘りに我儘な仕打だと思つたので好く聞いて見ると、之が大藏大臣坂谷芳郎君の令嬢であつた。

●坂谷君は新人物だけに其娘を府立中でも最も質素な第二高等女學校に入れて置くのは流石に見識だけれども、運動會の歸途に特別列車で一人離れて歸らせるような事をしては、學習院女子部のお姫樣も同じ事では

ないか。更に怪しむ可きは恁んな事を許す、府立の職員である。

●府立第二の校風、中等社會の代表者　此學校は實に北部山の手の所謂健全な中等社會を代表する學校である。

傲慢と虚榮の本家たる貴族や、俗惡、下劣なる富豪の子女は殆ど居ない。貴族としては平民的な坂谷君、富豪としては小石川の田中某君の娘位が關の山で、一般は中等社會の子女である。

府立女學校の組織と、此中等社會の氣風とが合して小石川竹早町にある府立第二高等女學校には質實な、何處とはなしに締りのある、學校としては寧ろ賞讚に値するような、校風が生れて來た。けれども此學校が家族主義、賢妻良母主義以上に一歩も出て得ない事はいふ迄もない處で、卒業生といふた處が未だホンの小娘で、只もう夢のような人生の快樂の跡を追ふて、自分の前に横へられたる切實な問題を想ひ煩ふといふ樣な調子は更にない。「家族」といふ觀念の下に、女性の「自己意識」を打破しようとするのが、日本の賢妻良母主義である。

●第三高等女學校は麻布に在る、之は竹早町の第二と違つて餘程貴族的な風が横溢して居る。奢侈、虚飾、餘程、學習院女子部や、東京女學館の風に感染して居る所がある。

勿論第三には、上流社會や軍人の子女が多いので、生徒の家庭も第

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二とは大分異つて居るからでもあらう。第一は淺草にある、之は所謂下町の有福な商家の娘や、本所深川邊に住む會社員の子女を集めたもので、風俗の華奢は恐らく三者の中首位を占めるものであらう殊に近頃は、下町の商人が其娘を競ふて山の手風に仕立てゝ、洋樂の稽古なんかをさせる事は、非常に流行となつて居るそうで、此學校の生徒が時世粧を凝らして音樂會なんかへ出かける處は、實に華奢を極めたものであるそうだ。

先づ府立では第二が一番健全で、第三は徒らに上品がるばかりで時々奇怪なる生徒の醜聞が漏れる。第二は奢侈と虛飾と實に眉を顰むるに足るものがあるようだけれど、第三のように生徒の情話が世間に漏れる等といふ事はないようだ。

●林吾一君の人物　林吾一君といへば十年一日の如く、努めて倦む處を知らない溫和な教育家である。

一言にして盡せば、何處までも上品な官吏風の人で、東京府にも、文部省にもなか〳〵忠實な教育家である。けれども情實の波瀾の激しい公生涯を永く續けた人だけに、實際的な、常識に富んだ、お世辭の好い、拔目のない、會社員的の半面もある。

此人は目下第二の校長といふ譯ではないが、女子尋常師範學校の校長と兼れて、第二の主事といふ事になつて居る。前にもいふた通り何かにつけて一々東京府に伺ひを立てゝ忠實にやる方だから、マア長所もないがはり之といふ缺點もないようだ。

師範學校の校長だからといふ譯でもあるまいが林君は第二の生徒からあまり深く敬慕されて居ない。勿論評判が惡いといふ事はないが、成瀨仁藏君が獨身生活を守つて、門下の學生から非常な同情と、尊敬とを博して居る事や、宮田脩君が倫理の講義をして、學生を涕泣せしむる事に比べると、第二の學生は林君に對して「隣家のおぢさん」に對する位の情緒しか有たないといふ事である。

●師範學校寄宿舍の燒失と寄附金　去年の何時頃であつたか、何でも祭日であつたと覺えて居る、小石川竹早町の府立女子師範學校の寄宿舍が燒失した。此時林吾一君は府立第二高等女學校の生徒に割當てゝ金四十錢宛を徵集したそうだ。

生徒の父兄は地方から出て來て居る生徒が急に丸燒になつて差當り女の身邊の小物に事を缺くだろうといふので、校長が氣をつけての計畫だろうと思つて快く出してやつた、處が跡で報告書を見ると、其金は總計寄宿舍新築費へ寄附といふ事になつて居た。勿論生徒の方ではそんな事を彼是といふ者は一人もなかつたが、父兄の方では東京府へ租稅を出して居る以上、負擔は此方のものであるのに、それでは體の好い二重の取立てではないかといふて眉を顰めた者もあつたそうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五號（一九〇）

記者は東京府に忠實なる林君としては此の如きは當然であろうと思ふ。

●退校處分と林君　記者は全體學校が寄宿舍まで拵へて生徒を育成しようといふのに、些細な過失があつたからといふて直ぐと除名とか、退校とかいふ樣な處分をするのは敎育の本旨が何處にあるかを知るに苦しむものだ。

記者が此評論に筆を染むるに至つた動機は、かの一部の舊思想から來る「男女學生墮落」の聲に反抗すると共に、妄りに新聞紙の記事なんかに動かされる敎育者の輕擧を警める積りであつた。

近頃は「家庭雜誌」を私かに學校へ持込んでクラスで廻し讀みをする事が大分流行するそうであるけれども、記者の苦衷を少しも思はないで、學校が罵られると、自分の私行を訐發されたかのように口惜しがるそうだ。併し夫は餘りに淺墓といふものだ。

曾て新聞紙上で男女學生墮落の聲の非常にやかましい頃の事であつた。第二の生徒で或る中學生と戀に陷つた者があつて、夫が新聞紙に現はれた爲に、學校では處分問題が起つたと

けれども林君は容易に輕卒な處分に出でなかつた。之が爲に一部の者は大分やかましく處分、處分と迫つたそうだ。結局、林君が諄々と說諭の上、其生徒に退校を勸告して事が落着したそうであるけれども

第六號（三〇）

之が爲一時は、林君が曾て千葉縣下に遊んだ時に其生徒の家に宿泊して非常な歡待を受けた事があるので、私情に引かれて、職務を怠るものだといふ批難が高かつたそうである。

記者はそんな事は何れにしても、全體、戀愛位な事で生徒を退校に處する等は怪しからん事を思ふ。

他の事は兎も角も、衝動の自然の發作たる戀愛が果して退校を價するやうな罪惡であろうか。十二時に喰べろといふ辨當を、空腹のあまり三十分早く喰べたといふまでの事ではないか。どうか爾來は恁んな奇酷な處分は廢めにして貰ひ度いものだ。殊に卑怯なのは、此處分が只新聞紙に出た爲に世間を憚つて遣るといふ事である。

世には隨分怪しからん新聞紙もあつて、全く事實無根の事を書き立てる者も少くはない。記者は敎育當局者が愼重なる態度と、圓滿なる同情とを以て惡德新聞一朝の記事に、可憐の少女が生涯の幸福を誤るようの事なきを希ふて止まないのである。之は決して林君に云ふたのではない。世評を過度に氣にかける僻のある私立の經營者等は殊に注意があつて欲しい。

●女學生の辨當　讀賣新聞記者は二月の社說に論じて女學生が辨當箱の小いのを競ふの弊を歎じ、例を擧げて、某校では其結果として二つの辨當を持つて來たものがあると記した。ほのかに聞けば、二個の辨當の火元は此府立第二であるそうだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そんな事の詮索はどうでも好いとして、讀賣記者の言は實際時弊に適中した説と思ふ。記者は各校とも當局者に於て幾分の注意を希望す

●結　記者は思はず府立第二に偏して酷なる筆を染めたようであるけれども、特に酷なるは、會々以て特に望を囑する所が多いからである。第二は第一第三に優つて、質素な、眞面目な美點を有して居る。春は都門に入つて、千條の揚柳煙るが如く、印象主義の油書を見るが如き江戸川の岸を、降りかゝる花に傘を傾けて行く少女よ、永久に健全なる中等社會の代表者たる事を忘るゝ勿れ。

記者の如く身を淋しき郊外の田園に潜めて、世と遠ざかり、時に後れて白髪徒らに老ひ行く身は甚だ世間の事情に暗い。讀者よ希くは記者が第一、第三の批評に疎なるを恕せよ。

▲記者が匿名を用ゐたるに係らず、未見の人の助言忠告少からず。中に第三府立の一少女の情事を細叙したるものあり、更に甚しきは數年以前の「道樂世界」を添へて送り來れるものあり、記者は之等の投書に接して深く自ら身の不德を慚ぢたり▲次號には本郷弓町の女子美術學校を品隲すべし。

三面記事

東京貯蓄銀行神田支店員松島金之助(二九)の妻おさき(二二)は良人の無情を恨みて三月十八日に縊死せるが、其の原因を聞くにおさきは幼少より嚴格なる女大學風に教育されし者にて松島と結婚して後良人に嫌はれて離縁を迫られ、自分は堅く「貞女兩夫に見えず」の教を守り一度嫁したる家を死處とせよと云ふ父母の訓戒に背かずと覺悟し居たるが、金之助は媒酌人に對ひて切りに離別を急ぎ、十八日の朝おさきに菓子折を持たせて媒酌人方へ遣はし其の儘離別せんとしたるに、おさきは其の日歸り來りしより金之助は失望して其の夜自ら附添ひておさきの姉の許へ送り届けんとしたれば、おさきは暗涙を吞みつゝ之を諾し、さらば明日姉の許へ引取るべければ今夜一晩は泊めて貰ひて荷物を仕末せんとて浮かぬ心を勵ましながら衣服を片付け、獨り四疊の居間に入り夫より自殺を覺悟せるものなりといふ。嗚呼舊道德の犧牲よ！舊習慣の犧牲よ！

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(Kono ran wa Fukao Shō ga kaku.)

Tōkyō Hakuran-Kai.

Sengetsu 20ka kara Ueno Kōen de Tōkyō Hakuran-kai ga hirakareta. Machi no hito wa maru de ki mo kuruu bakari ō-sawagi o yatte iru. Keiki wa taihen na mono da.

Hajimatta bakari de, mada iroiro no kazaritsuke mo shinamono no narabekata mo owarazu; mi ni itte mo mada hanahada tsumaranai. Kongetsu no sue koro ni nattara migoro darō. Sakura mo sakushi, korekara no Ueno kaiwai wa shibaraku zattō no chimata to naru de arō.

Yūbin Kisoku no Kaisei.

Konkai Yūbin Kisoku ga kaiseisarete Shimbun ya Zasshi o okuru no ni taisō tsugō ga yoku natta. Ima made wa 20momme made 5rin de, 2satsu mata wa futatsu no gō o issho ni tsutsumu to 20 momme goto ni 1sen de atta ga, kaisei no kisoku ni yoreba, ikusatsu issho ni shite mo kamawanai, 20momme goto ni 5rin to yū koto ni natta no de aru.

Shōgakkō-Rei no Kaisei.

Hisashiku uwasa no atta Shōgakkō-Rei wa sengetsu 21nichi ni iyoiyo kaiseisareta. Kono kaisei ni yoreba, Jinjō Shogakkō wa imamade 4ka-nen de sotsugyō to yū koto ni natte ita no ga konda wa 6ka-nen ni nobita. Soshite 4ka-nen no Kōtō Shōgakkō wa 2ka-nen ni hetta. 6kka-nen ga gimu-kyoiku to yū koto ni natta no de aru. Nippon no Kyoiku no hitotsu no shimpo to shite, wareware wa kore o yorokobu.

Kiku tokoro ni yoreba, ima Jinjō Shōgakkō ni iru seito to, kono 4gatsu ni agaru mono to wa yappari 4kanen de sotsugyō sasete, sono tsugi ni nyūgaku suru mono kara 6ka-nen o jikkō suru to no koto de aru.

A lady, saying that she was but thirty years of age, one of the hearers said: "It must be true, for I have heard it these ten years."

改正定價

一部	金八錢
六ヶ月前金	四十二錢
一ヶ年前金	八十錢
（何れも郵税共）	

廣告料

特別一頁	十圓
普通一頁	七圓

▲本誌は毎月一回（一日）發行とす。

▲代價は小爲替を以てお送り下さい。郵券代用ならば五厘切手で一割增に願ひます。

▲御注文の時は必ず何卷何號より何號まで何冊の前金と明瞭に御記載を願ひます

▲御手紙には必ず住所姓名をハッキリとお書き下さい。又御轉居の際は新舊の宿所を併せて御通知を乞ふ。

▲本誌は前金でなくては一切御註文に應じませぬ。前金の切れた時には帶封に「前金切」と朱印を捺して上げますから御注意下さい。

▲歐米諸國よりの御注文は別に一册に付二錢づゝの郵税を申受けます。

明治四十年三月廿五日印刷
明治四十年四月一日發行

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行兼編輯人
兼印刷人　大杉榮

東京市京橋區日吉町十番地
印刷所　近藤商店

東京府下新宿淀橋町柏木三四二
發行所　家庭雜誌社

大賣捌所　上田屋　東京堂　良明堂　東海堂

製造元

花島煉乳場

伊豆國三島町

○各位の家庭の花の一層美はしからんが爲に

○遠來の輸入品よりも新鮮なる内地製煉乳を薦む

發賣元

逸見山陽堂

東京日本橋區大傳馬町一丁目

（電話浪花二一五番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ローヤル水ハ

最モ高等ナル最モ進歩セル最モ名譽アル化粧水ナリ

定價 拾錢 拾五錢 廿五錢

ローヤル白粉ハ

最モ改良セル最モ優等ナル無害ナル白粉ナリ

定價 拾錢 拾五錢 五拾錢

東京銀座壹丁目

發賣元 つやぶきん 佐々木商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回内國勸業博覽會銅牌及褒賞狀受領

登録商標

壽美禮おしろい

五二會品評會功勞銅牌

THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE

ヴワイオレット煉製
錫蓋附乳白硝子器入
壽美禮おしろい

●壽美禮おしろい

● れり製 定價（大壜二十錢 小壜十二錢）
水製 定價（大壜二十五錢 中壜十五錢 小壜十錢）

ヴワイオレット水製

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は　歐米諸國に專ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素新成蹟體等を以て配劑しあるを以て肌を艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保續するの特性あり『壽美禮白粉』は常に用て御顏肌へを清々しく天然の色白きに至るべし菫『おしろい』は芳香馥郁と長く保つが故宴會、祝席、雜踏の場所に臨て衞生上生上有益無比の逸品なり『壽美禮白粉』は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●西洋洗滌劑 壽美禮あらい粉の特性

●弊舖製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に專ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

◉常に髮洗ひに用ひ給へば髮のねばりを取り油あか等を生せず又半襟ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

◉使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

綠、藍、紅彩蝶番ひ鑵詰 七錢五厘
大袋入 二錢
袋入 壹錢

登録商標

西洋色白くなるあらひ粉

SUMIRE.
Washing Powder

壽美禮あらい粉

製造本舗 東京東兩國元町兩國橋際

壽美禮堂謹製

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

改良ロンテニス二重枠ラケット一組

一號	品	一二、五〇〇
二號	品	一一、〇〇〇
三號	品	八、八〇〇
四號	品	七、四〇〇
五號	品	六、七〇〇
六號	品	五、七〇〇
七號	小學用	四、七〇〇
八號	婦人用	六、〇〇〇
九號	婦人用	七、〇〇〇

東京神田裏神保町五
S.A.安藤商店

ピンポン室内テニス

一號	一箱	一、二三〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張	四間半	一、七五〇
二號	一張	五間半	二、二五〇
三號	一張	六間	二、四五〇
四號	一張	七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町
安藤商店
電話本局四百八十四

石鹼と洗粉は何れが好きか

●壹圓の舶來石鹼よりもクラブ洗粉は衛生美身術に適合す

●幾百種の洗粉の中にてクラブ洗粉のみは石鹼以上の特點あり

●クラブ洗粉は御婦人方は勿論紳士方の愛用もまた盛なり

●クラブ洗粉は各地の信用ある呉服店及び小間物店化粧品店にて販賣せられつゝあり

神戸市花隈町間ノ踏切上ル本店
大阪東區北久太郎町四丁目御堂筋角支店

中山太陽堂

カメリヤは色を白くし
艶をよくする最新最良の洗粉なり

カメリヤは優美なる香氣を有し一度之れを用ゆれば芳香永く身邊に薫りて自から心氣爽快ならしむ

殊に貴紳淑女の高等化粧料として大に社會に高評を博せらるゝ本邦唯一の洗粉也

定價
大瓶廿五錢
瓶入十二錢
袋入五錢
一小袋三錢

ライオン齒磨 發賣元
東京神田
本舗
小林富次郎